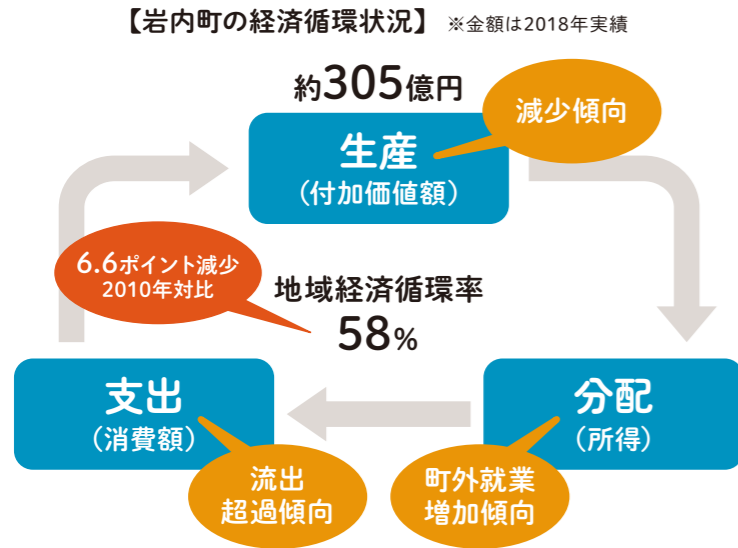


1. 現状と課題

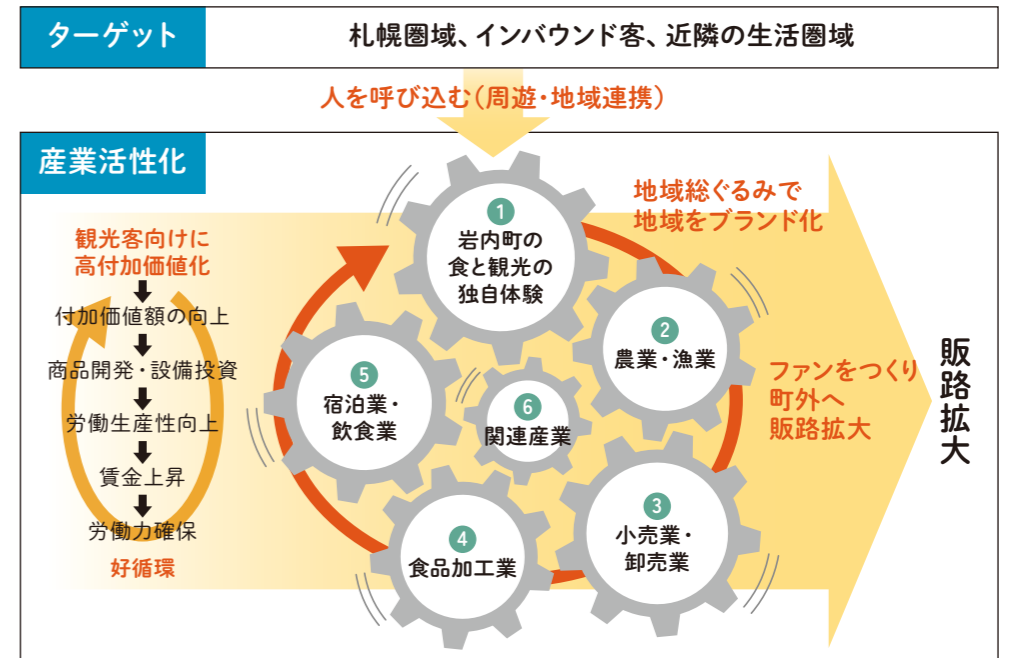
岩内町は、人口減少等に伴い地域経済循環率が低下していると考察されます。そこで、観光客や近隣の生活圏域の消費を取り込み、生産（付加価値額）を向上させ、労働生産性の向上を図っていくことが課題です。



区分	課題
生産	<ul style="list-style-type: none"> 観光産業を軸に各産業を活性化 後志管内での観光戦略の差別化 人材・投資原資の確保のために労働生産性向上
分配	<ul style="list-style-type: none"> 労働生産性向上による賃金上昇 近隣町村の生活拠点としての移住定住促進
支出	<ul style="list-style-type: none"> 札幌圏域からの誘客 ニセコエリアからの集客を強化 近隣生活圏域の消費の呼び込み 周遊・回遊を高め、滞在時間延長による消費額の増加

2. 戦略 海、山、人を活かし食と観光で価値創造と産業活性化

岩内町ならではの地場産品や自然・歴史・文化を活かし、地域産業への関連性が高い食と観光産業の取り組みを進め、各産業が歯車のようにつながりながら活性化していくことを目指していきます。



3. 基本目標とアクションプラン コンパクトな町を活かして選ばれ続ける港町へ

3つの基本目標を推進させる重点事業として、海、山、街のエリア別に拠点を整備し、観光を軸に地場産業全体を活性化させ、町外への販路拡大を推進。

基本目標

「活気あふれるまちづくり」
3つの「基本目標」

- 人を呼び込む食と観光
- 海、山、市街地の魅力づくり各拠点整備
- 滞在時間を延ばし観光消費額を増加周遊・回遊

9つの重点事業

極上のリゾートエリアを高度化

- 「レクリエーションの森」整備事業
- 円山エリア高付加価値化事業

周遊・回遊機能を整備

- まち魅力・情報発信事業
- ナイトタイムエコノミー推進事業

賑わい溢れるマリンスポット創出

- 海辺の賑わい創出事業
- マリンプラン策定事業

歴史とストーリーを活かした食のまち・いわないのブランド化

- ブランド産品推進事業
- 食のまち育成事業

市街地のランドマーク整備

- 道の駅再整備事業

ハード・ソフト事業で産業基盤を強化

円山エリア

周遊・回遊

食

市街地エリア

自然

歴史

文化

災害の少ない地域 良質な気候

札幌から車で約60分^{※1} 北海道新幹線 倶知安駅から車で約30分^{※2}

※1：高規格幹線道路延伸後
※2：北海道新幹線延伸後

4. 数値目標

宿泊観光客数	令和5年度 (2023年度)	令和11年度 (2029年度)	令和16年度 (2034年度)
	76.4千人	80.2千人 (令和5年度比105%)	84.0千人 (令和5年度比110%)

日帰り観光客数	令和5年度 (2023年度)	令和11年度 (2029年度)	令和16年度 (2034年度)
	261.4千人	303.1千人 (令和5年度比116%)	409.4千人 (令和5年度比157%)

一人当たり生産 (付加価値額)	令和2年度 (2020年度)	令和11年度 (2029年度)	令和16年度 (2034年度)
	2,548千円	2,806千円 (令和2年度比110%)	2,915千円 (令和2年度比114%)

一人当たり平均課税対象所得	令和4年度 (2022年度)	令和11年度 (2029年度)	令和16年度 (2034年度)
	2,680千円	2,753千円 (令和4年度比103%)	2,894千円 (令和4年度比108%)